

評価報告書 (2020年度)

社会貢献推進事業評価結果

◆ テーマ1 事業方針及び事業計画の設定と反映

テーマ1についての評価

2020年度事業方針・事業計画等において、評価の観点で示された3点が明確に記載され、その実施に向けての取り組みも確認された。

緊急事態宣言という厳しい環境下であったが、今年度の事業方針は、「建学の精神、ミッション・ビジョン」「中・長期的計画」を踏まえて立案されたといえる。心身の健康を「する」「みる」「支える(育てる)」という複合的な視点により事業方針を立て、様々な事業に取り組んでいる。自己評価において、流れ作業的な処理ではなく、委員会等で実施状況・内容の確認・点検を行う必要性を掲げるなど課題認識しているので、着実に推進を図ってほしい。

地域・社会で活躍できる人材は幅広い分野で求められており、かつ、超高齢化社会を迎える中、体育、スポーツ、健康づくりといった分野での高度な専門知識や研究成果はますます重要になってくると思われる。対面形式だけでなく、オンライン会議、ポータルサイトなど SNS を介した情報の発信・共有が適切に行われたと評価できる。さまざまな災害が多発する時代、今年度に得た経験知を今後の事業計画立案と事業推進のために活用してほしいと思われる。

今年度の積極的取組みとして多いに評価した点は、「学外への周知における共通認識の醸成に向けた取り組みの推進」として、新たに横浜・健志台キャンパスにスポーツプロモーション・オフィスを開設したことである。これにより世田谷地区と横浜地区という2地域との連携がより円滑に行われると思われる。また学生や教職員間への情報伝達も迅速にできることを期待する。

このように地域・社会貢献活動の活性化を継続的に推進していくために、全学で共通認識し、地域のニーズ及び課題解決に積極的に取り組んでいこうとする姿勢は評価できる。

次年度は、ボランティアに参加した学生などの実施報告会を開催するなど社会貢献活動に対する理解と共通認識の醸成に向け取り組んでほしい。

評価の観点から

評価の観点(1)(2)(3)の達成度と評価について一判定の留意点を踏まえてー

(1) 建学の精神に基づく事業方針・計画の明確化 (評価Ⅰ 4.625)

・建学の精神、ミッション・ビジョンを踏まえた方針であるか (評価Ⅱ 〇7・その他1)

【評価・意見】

事業方針については、建学の精神及びミッション・ビジョンを踏まえたものと認められる。

新型コロナウイルス感染拡大の影響下、これまで続けてきた多くの事業実施が難しくなり、実施期間も後期からと半年に短縮された中で、運営戦略会議および地域連携本部会議をオンラインで開催し、建学の精神に基づく事業方針と計画の立案が行われたと言える。

(2) 中長期的計画への反映

(評価Ⅰ 4.25)

- ・事業方針・事業計画が、中長期的な計画に反映しているか (評価Ⅱ 〇7・その他 1)

【評価・意見】

事業計画の策定の時点においては、建学の精神、ヴィジョンを踏まえた日体大らしい方針と計画であり、段階を踏んだ中長期計画もきちんと立てられたうえで、具体的に事業の展開をめざしていると思う。

(3) 学内外への周知における共通認識の醸成に向けた取り組みの推進 (評価Ⅰ 3.875)

- ・学生・教職員に周知徹底するための方策が施されているか (評価Ⅱ 〇8)
- ・学外への周知を積極的に展開しているか (評価Ⅱ 〇7×1)

【評価・意見】

学内外への周知については、世田谷だけでなく、横浜・健志台キャンパスにもスポーツプロモーション・オフィスが開設されたことは、学内外の関係者との相互理解を高める手段としてとても有効である。新たな展開もできるようになり、学生・教職員のボランティアに対する理解や取り組みが広がるとみられる。

今年度の人材バンク登録者が、コロナ禍にもかかわらず前年比で 32 人増加したことは、地域のボランティア活動が定着してきたことを示すといえる。

コロナウイルス感染拡大という外部要因による影響が大きい中で、良く取り組んでおり、目標達成に向けた尽力がうかがえる。

向上・充実のための課題

全般的にコロナウイルス感染拡大により実施できなかった項目があるので、今後の感染収束をにらんだスケジュールや取り組みが必要と思われる。継続可能な事業とそうでない事業を、今年度の成果を基に精査する必要があり、各事業項目について PDCA サイクルを確実に実施することにより、事業の進捗状況等を把握するように努めてほしい。

中期計画については、今年度が 5 年間の 3 年目という折り返しの時期でもあり、この 3 年間の点検・評価を行うとともに、次期の中期計画策定に向けた課題の洗い出し等を成果の分析とともに取り組むことを期待したい。なお、グラウンドデザインである 2018-2022(中期目標計画)における細かな項目と本事業の実施計画との対応性が分かりにくいので、両計画における実施状況を適宜改訂して整合させることが必要と思われる。特にコロナ感染症という想定外の状況変化に対応した修正・変更は必要と思われる。新たな生活様式の中で、学内、地域、その他ステークホルダー毎、どのような手法・取組が有効なのかを考慮し計画立案いただきたい。

学外への周知については、今般のコロナ禍の中でのインターネットの利用拡大を視野に情報発信の効果的な方法の検討を行っていくことを期待したい。しかし、ある一定数は機器の使用が難しい世代や人がいることも忘れてはいけない。

コロナ禍であるが、人材バンク登録者が引き続き拡大していくよう、情報の発信を継続して行ってほしい。

◆ テーマ2 地域志向の教育課程編成と実践

テーマ2についての評価

スポーツ文化学部、スポーツマネジメント学部、児童スポーツ教育学部のカリキュラムにおいて、地域の課題解決に資する必修科目と選択科目(理論・演習・実習含む)が複数設けられており、大学の歴史や建学の精神を紐解く中で大学の社会的使命を再認識したうえで、地域課題や体育・スポーツに関する諸課題解決に向けた人材育成のための教育課程編成が行われていることが確認できた。迅速に、CSC 資格制度が確立されることを期待している。

但し、科目の準備は出来ているが履修段階に至っていない学部もあることから、全学的に足並みが揃うには少し時間が必要である。自己評価では、教育内容の設定が学部により異なり、大学全体の取組としては不十分なことを認識しているため、今後の拡充と地域課題解決を担う人財のさらなる輩出を期待する。

学生ボランティア活動は人材バンクの登録者が増加するなど、コロナ禍の中で積極的に取り組まれていることが資料をもとに確認された。学生が主体的に地域の課題解決に取り組める機会を一定数確保したことは、コロナ禍での努力の成果と評価している。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、地域との交流や学生の派遣活動等十分には行えなかった項目はあるが、テーマと具体的取り組みの方向性は、つながりがあり、よく考えられたものとなっており、今後の着実な実践を期待している。

評価の観点から

評価の観点(1)(2)の達成度と評価について一判断の留意点を踏まえて一

(1) 地域志向の人材育成と貢献活動に繋がる教育課程の編成 (評価Ⅰ 4.0)

- ・地域の課題解決に資する取り組みを推進することの意義を理解させる教育内容が設定されているか (評価Ⅱ 〇8)

【評価・意見】

教育課程編成に関し、不十分との認識もあるようだが、全体的に見れば、概ね評価できる。学部新設にともなうカリキュラム切換えなどもあることから、全学的な教育内容とは言えないが、地域の課題解決に資する人材育成のためのカリキュラムが整えられているといえる。

地域との関わりについて学べる環境は充実してきていると思うが、学生が取り組みを実践するまでの理解ができているかの分析を進め、地域とのかかわりを持つことの重要性を学生が十分に認識できるような方策を検討し、意識の向上を図っていくことも必要である。

地域とのかかわりについてカリキュラムに取り入れていることは、学生がこの問題について取り組む意義を考える契機になっていると思う。講座を受講した全員ではないかもしれないが、何人かの学生がその意義を十分に認識し、そのことを広めていくには時間がかかるかもしれないが、粘り強い取り組みをお願いする。

(2) ボランティア活動の推進と人材育成への取り組みの充実 (評価Ⅰ 4.25)

- ・地域の課題解決に資する取り組みに学生が参画する機会を設けているか (評価Ⅱ 〇8)

【評価・意見】

ボランティア活動と人材育成は、コロナの影響を受け各種活動が少なかったが、評価の観点となる取り組みは実践できている。

地域とのかかわりについて学ぶには、事前の講義と地域での活動の実践が必要ではないか。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大に影響を受け、派遣を依頼される行事もほとんどなく、例年のようなボランティア活動はできなかつたであろうが、その状況でもガイドラインによって模索しながら感染症対策を実践し、できる範囲で地域や教育現場で必要とされた人材

派遣を行い、学生のボランティア活動、体育・スポーツ活動の機会をつくり、人材育成の場を確保した取り組みは評価できる。

人材バンク登録者数は着実に増加している。残念ながらコロナウイルスの感染拡大により活動の場が少なくなったので、収束後の活動の場の確保に努めてほしい。

向上・充実のための課題

引き続き、CSC資格制度の確立などにより、地域で活動する人材育成に努めてほしい。このことは、地域も強く求めていることである。

地域貢献に関わる科目の履修者数、受講生の地域貢献に関わる意識調査、ボランティア参加者のアンケート調査などを可能な範囲で適宜取得すると、今後の活動に活かせると思われる。

今後の課題として、地域志向の科目として開講されている授業に対する学生の授業評価アンケート等の分析と、それに基づく改善策の検討を学生参加の中で進めていくことが、教育内容の一層の充実につながり、テーマ2の目的でもある人材育成につながるものと考えられる。

学生自身が全体像を理解する手段として、地域での活動(フィールドワーク)は有効と考える。地域人材との交流の中で、学びの意義や成果を実感する機会があると、学生自身の理解度促進、知識の定着、学習意欲向上にも寄与すると思う。また、新型コロナウイルス感染症対策を含む実践的な学びもカリキュラムに入れて実践するなどの開発型研究も期待される。

教育実習の代替としての学級運営や学習支援のボランティアも、これからの時代必要とされてくると思う。いろいろな体験の機会を確保して、幅広く対応できる実力ある人材育成に期待したい。

オリンピック、パラリンピックの選手を数多く輩出している日体大の学生がボランティア活動を行うことは、地域からの応援とつながりがより一層強まるものと思う。ただし、地域からの要望が必ずしも学生の資質向上につながらないこともあるかもしれないので、要望の精査が必要と考える。今年度のように、感染症等による活動自粛が求められる場合は、何よりも学生や教職員の健康を第一に考え、お互いにリスクの少ない、必要最低限のボランティア活動のみにするべきであると思う。

◆ テーマ3 地域の課題解決に向けた効果的なプログラムの実施と貢献活動の推進

テーマ3 についての評価

日本体育大学の人的資源・物的資源を活用しての様々な取り組みは、地域でも高く評価されている。特に、2019年度(2020年1月)の取組ではあるが、コロナが拡大しつつある中、スポーツフェスタを健志台キャンパスで開催いただけたことは、多くの住民、特に体力低下が危惧される子供世代へのスポーツ実施(体験)機会につながる取組であり、非常に感謝している。

今年度は、新型コロナ感染拡大の影響を受けて、準備した計画をやむなく断念し、実行可能な活動だけを実施した、というのが実情と思われる。そのため、規定の評価基準に従うと、ふさわしい成果が十分にあったとはいえない。しかし今年度は、コロナ感染拡大の影響を考慮した基準で評価するのが妥当と思われるので、その観点でみると、各種プログラムの開発等においては、学内から積極的な参画があったこと、オンライン講座の開催などで新しい生活様式を実践した取り組みを高く評価したい。身体活動・メンタルヘルスに関するアンケート調査、健康・体力づくりに関わるオンライン講座の開設など、総合スポーツ科学研究センター等との連携により継続的に行っているプログラムや公開講座など、対面からオンラインへの切り替えをしながら地域の課題解決に向けた取組がなされていることは評価できる。地域の美化、防災力の向上については、花植えや防災講座のオンライン開催などできる範囲での活動に取り組んでいる。自治体や地域との連携は、大学・学生にとっても有意義なものであるため、引き続き、地域社会貢献活動への参画意識の醸成を図ってほしい。

大切なことは、今年度の経験を次年度以降の活動に活かすことである。次年度以降の成果に期待したい。

評価の観点から

評価の観点(1)(2)(3)(4)の達成度と評価について一判定の留意点を踏まえて一

(1) 地域の課題解決に繋がる実効性のあるプログラムの開発 (評価Ⅰ 4.125)

- ・研究機関等と連携して地域課題を抽出し、その研究成果をプログラム開発に生かしているか (評価Ⅱ 〇7・×1)
- ・地域社会からの要請を取り入れたプログラム開発を推進しているか (評価Ⅱ 〇8)

【評価・意見】

コロナ禍であっても、オンライン講座や動画配信など、地域課題解決に向け、実効性あるプログラム開発や人的・物的資源を生かした取り組みは評価できる。体力測定に代わる、身体活動量とメンタルヘルスに関するアンケート調査を実施、また、公開講座についてもオンライン開催で実施して、継続できたことは今後の展開にも繋がっていくと思う。

今後、参加者の増加につながる取り組みである。

(2) 人的・物的資源を活かした公開講座等の実施 (評価Ⅰ 4.75)

- ・大学が有する人材等の資源を活用して、地域の課題解決に資する公開講座等を開講しているか (評価Ⅱ 〇8)

【評価・意見】

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、当初計画が十分には実施できなかったが、その中でもオンラインを使った種々の公開講座、地域の人が活用できるコンテンツのアップロード、災害ボランティアマッチングコーディネータ養成講座など工夫して実施可能なものに取り組みされてきたと、関係資料から判断された。

また、今年度のオンライン公開講座の実施から、来年度、対面実施できない場合を考慮してのWeb等からの応募可能にしたことは、早めの対策として情報共有できて良いと思う。次年度においても、コロナウイルスの影響がどのくらいあるのかという点については不明であることから、Web等の活用など代替策を検討しているとのことだが、この取り組みは他の事業にも活かせる

ものである。

(3) 地域の美化、防災力向上への取り組みの推進 (評価Ⅰ 4.5)

・地域の美化に努めるとともに、地域社会と連携して防災力の向上に努めているか

(評価Ⅱ 〇8)

【評価・意見】

コロナの影響により実施できなかったイベントも多かったが、地域美化・地域連携活動についてもこの状況下で可能な範囲で十分取り組んでいる。工夫して継続・情報発信することができれば地域住民の安心に繋がる。次年度の取り組みに期待したい。

(4) 地方自治体との連携強化の支援 (評価Ⅰ 4.375)

・学校法人が協定を結ぶ自治体と、地域の体育・スポーツ及び健康づくりの分野で相互の振興を図る活動に対する支援を行っているか

(評価Ⅱ 〇8)

【評価・意見】

コロナの影響によりオンラインによる5件の事業に留まったことは致し方ない。各種事業を展開して実績ある取り組みだが、今年度新たな締結はなく、感染症の影響でオンライン事業に留まったことは残念である。この一年はスポーツに取り組むことも制限されることが多く、テーマ3の取り組みについては全般的に非常に難しかったと思われる。

「人的・物質的資源を活かす」講座や自治体との連携強化の支援等は実践が困難であったことから評価は高くないが、いずれの観点からみてもできるだけのことをしようと模索していたことは評価したい。次年度の取り組みに期待したい。

向上・充実のための課題

令和2年10月に実施した「横浜市民スポーツ意識調査」の結果を見ると、「成人のスポーツ実施率」「65歳以上のスポーツ実施率」「障害者のスポーツ実施率」いずれも、昨年から上昇するとともに、過去最高の数値となった。この背景には、新型コロナウイルス感染症拡大により、健康への意識が高まったことや自宅で過ごす時間が増え、健康・体力の維持、増進や運動不足解消といった意識の高まりがあったと考える。

東京2020大会のレガシーとしての体育・スポーツに対する高まりの期待とともに、こうした市民の意識変化を契機に、新たな生活様式に合致したプログラム開発や講座の需要も高まると思う。引き続き、地域課題解決に向けた実効性の高い取組を期待している。

今年度の経験も踏まえて、実施形態・方法としてのリモートの導入など、対面との併用を含むハイブリッド型方法についての検討を企画段階から行うことを期待したい。また、新しい生活様式を取り入れ、体力・健康づくりや感染症対策などを内容とするプログラムの開発も期待したい。継続性のある公開講座の実施や事前申し込みによる事業の実施、地域・行政との連携強化など、引き続き、地域社会貢献活動に力を注いでほしい。なお、事業実施の際の広報については、より広く周知し、集客できる方策を検討願う。

今年度実施できなかった地域の美化運動や防災対策への協力は、地域貢献の目玉の一つと思われるので、参加者がより多くなることを期待している。日本体育大学に対しての地域の期待は大きいですが、地域も与えられるばかりではなく与えていく努力が必要だと感じている。お互いに協働して問題解決・改善をして繋がりを深めていきたい。

今年度の経験を次年度以降の活動に活かすことが大切だが、自己点検評価書の改善・向上策に記載したことを早期に具体化して、次年度の計画に臨んでほしい。

※評価Ⅰについて

・「評価Ⅱ」を踏まえ、基準・テーマを達成するための取り組みとして評価の観点に対応した内容であるかどうか、以下のとおり5段階で総合的に評価したもの。

委員8名の評価の平均値を記載している。

評価	内 容
5	評価の観点を達成するための取り組みとして、十分にふさわしい内容であると評価できる。
4	評価の観点を達成するための取り組みとして評価できる。
3	評価の観点を達成するためにはさらなる努力が必要である。
2	評価の観点を達成するための取り組みとしてはふさわしいと言えない。
1	まったく対応できていない。

※評価Ⅱについて

・評価の観点から、その判定にあたっての留意点の内容が適切に対応できていると判断できる場合は、「○」、対応していないと判断される場合は「×」として、評価委員が判定した○×の数を記載している。

《評価委員》 ※敬称略

奥田 妙子、北神 正行、熊坂 俊博、定本 朋子、新海 美紀、鈴木 孝之、矢野 修司

以上 7名